ご近所の当事者たちの協働の自助行為を把握する

当事者の助け合いマップ

木原　孝久

住民流福祉総合研究所

当事者と地図を囲んで語り合う６つの方法

⑴「私の自助マップ」だけでは満足する情報が得られない時

これは、当事者の自助行為の実態を６つの角度から取り上げ、彼らの問題解決の手法を明らかにしようというものである。

同じ自助マップでも、「私の自助マップ」という冊子は、当事者１人ひとりが、信頼するサポーターと一緒にマップ作りをする方法を示した。これで当事者１人ひとりの問題解決行動は把握できるかもしれないが、やはりたった１人では満足な解決策が出てこないという場合もある。

⑵当事者仲間は助け合っている。それをこのマップに記録する

そういう場合にどうするか。小さなご近所では、一人暮らし高齢者などは、かなり助け合っている。だから、同じご近所内の当事者仲間に集まってもらって話し合ってもらえば、１人ひとりの努力では解決策が見つからなかったものも、うまく見つかるかもしれない。「私の自助マップ」の補完策としての自助マップである。

⑶ご近所内の当事者たちに集まってもらい聴取する

当事者が集まり、課題を出し合い、みんなで解決していくには、いろいろな方法がありうる。ここでは、６つを提示してあ

る。「私の自助マップ」とペアで活用していただくといい。１人の当事者と一緒にマップを作っている間に、複数の当事者の関係も出てくる。その時にこのマップを使ってくれればいいのだ。

⑷支え合いマップの当事者版

１つのご近所内の複数の住民に集まってもらって聴取するといえば、支え合いマップ作りと同じである。両者の違いは、支え合いマップは一般住民に集まってもらって、そのご近所が抱えている福祉課題を取り上げ、どのように解決していくかを考える。当然、福祉問題を抱えた当事者の話も出てくるが、そういう場に当事者はなかなか参加してもらえないので、その部分は推測するより仕方がなくなる。一方の自助マップだと、とにかく集まってもらえれば、当事者の福祉課題は出てくるだろう。

⑸一般住民もまた当事者の１人、という場合も

ただ、当事者と言っても、その地域特有の問題となると、住民全員がそれに影響を受けるから、全員が当事者となる。だから、誰でもいいから数名の人に集まってもらえば、それが当事者の話し合いになるのだ。

＜その１＞

　要援護者の困り事の１つを取り上げ、解決策を様々な角度から模索する。例えば「車のない一人暮らしの高齢者はどうやって買い物をしているのか？」

　一人暮らし高齢者の福祉課題にはいろいろあるが、その１つを取り上げる。たとえば「車のない一人暮らし高齢者は、どうやって買い物をしているのか？」。あるご近所で、当事者１人ひとりの行動をよく知っている世話焼きさんに聴取したところ、次のマップのようになった。

交通(車)に不便をしている人
買い物協力者
息子
注文すると
取り寄せてくれる
商店
息子
移動販売を利用
買い物を
してもらう
いろんな人に頼む
買い物を
してもらう
息子・娘
息子
買い物を
してもらう
息子
電車を利用

［作業の仕方］

❶１つのご近所を選び、その中の、該当する当事者の１人ひとりに、この質問をしてみる。

❷例えばマップのご近所の場合、息子（娘）が来た時についでに買ってきてもらうというのが一番多かったが、後の表の通り、これを含めて全部で６通りの解決事例が見つかった。

❸次に、このご近所で同じ問題を抱えている人にこれら６つの解決策を提示し、まだ解決できていない人について、どれなら取り組めそうかを一緒に考える。例えば親しくしている隣の一人暮らしの人に息子がいて、訪ねて来る時についでに買い物もしてくれるということなら、自分の買い物も頼めないかお願いしてみるとか。

❹この６つの選択肢を頭に入れて、他のご近所でも同じ悉皆調査をやってみる。その結果、最初の６通り以外の方法が見つかれば、それも案に加える。こうやって、調査の対象ご近所の数が増えれば、共通の解決策もある一方で、新しい解決策も見つかるはずだ。一見似てはいるが、少し異なるという解決策も出てくるだろう。

❺再び最初のご近所に戻って、他のご近所で見つかった新しい解決策が使えないかを調べてみることもできる。

❻こうして、「車のない一人暮らし高齢者はどうやって買い物をするのか」という問いに対する答えが、最終的にはかなりの数の選択肢になるはずである。それは、全国のほかの土地でも使えるノウハウになる。地域の状況によって、使える方法が変わってくるが、それもまたノウハウの一部になりうる。

❼１つのご近所で実施した悉皆調査が、全国のどこのご近所にも役に立つものになるのだ。

❽同じ方法で、一人暮らし高齢者の他の困り事についても、❶から❼までの作業をやっていけば、福祉課題の解決策の、まさ

に「全集」が出来上がるかもしれない。

	車がない人の対策	取り組みの方法・コツ・留意点など
1	子どもが来る時に買ってきてもらう（5人）	＜未解決対策＞Ａさんの場合。隣人が息子に頼んでいるので、ついでにお願いしてみよう。
2	電車を利用して買い物に（2人）	
3	ご近所の人が買い物をしてくれる（3人）	＜未解決対策＞Ｂさんの場合。近くのＫさん（世話焼きさん）なら、お願いできるかも
4	注文すると取り寄せてくれる店（1店）	
5	その時々で周りの人たちに頼む（1人）	
6	移動販売を利用（３人）	

＜その２＞

ご近所にいる「助けられ上手さん」に集中的に聴取し、その人のさまざまな観点からの助けられ方のノウハウを抽出する。

または、助けられ上手さんにこだわらず、１人の当事者のさまざまな困り事と、それらを本人はどのように解決しているかを聴取して、その全体像を眺めながら、その人独特の解決の方法論をまとめることもできる。

［作業の仕方］

❶当事者は、問題の１つひとつをどのように解決しているか。担い手の見つけ方、見つける範囲、効果的な依頼の仕方、他の当事者との連携の仕方、世話焼きさんの活かし方、それでもまだ解決できない問題、解決できない理由、総じて成功のコツ。

❷その当事者の問題解決の方法論をまとめた上で、まだ解決できていない問題の解決策を本人と一緒に考える。

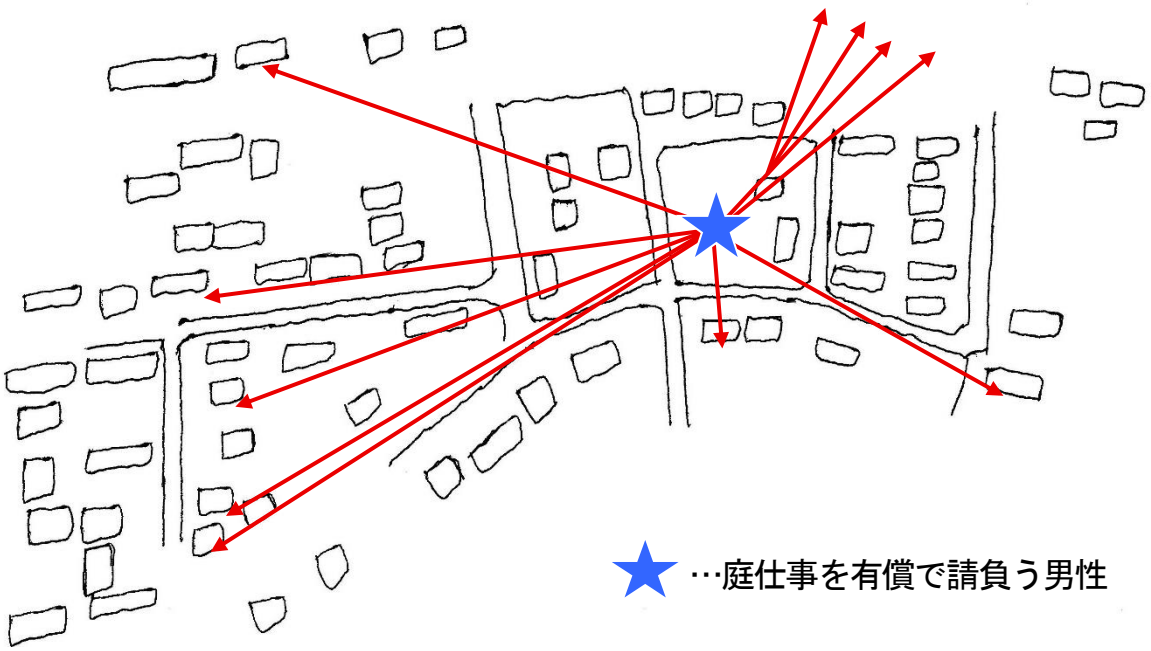
❸この中で、他の人にも応用できるのはどれか。

＜助けられ上手さんの依頼の仕方＞

	依頼した相手と内容	依頼の仕方・コツ等
1	○○さんにゴミ出しを	
2	○○さんに庭木の手入れを	
3	○○さんに庭の草取りと送迎を	
4	○○さんに送迎を	
5	○○さんに雪かきを	
6	ご近所の４人と一緒に生協の共同購入を	

＜その３＞

ご近所内で親しくしている数名の当事者に集まってもらい、共通の困り事をどのように解決しているのかを調べる。例えば以下のように、高齢で一人暮らしの女性たちが庭木の剪定が大変だという場合に、誰かが協力者を見つけ、他の仲間もその人にお願いし、結局仲間全体に広がった、というように。



［作業の仕方］

❶１つの困り事が仲間の間から発生したとして、それをどのように仲間に伝え、そして他の人も含めてどのように解決されたのか、そのプロセスを調べる。

❷親しい仲間といっても、それぞれの生活状況は異なる。それを踏まえると、１つの問題解決行動の中で、１人ひとりの生活状況の違いをどのように調整していくのか。

❸１人ひとりで取り組むものと、共同で取り組むものを区分けしているのか、またはその他の方法を取っているのか。

❹共同で取り組む場合の役割分担のあり方はどうなっているのか。

＜当事者仲間どうしでの問題解決の方法＞

	提起された困り事	解決へのプロセス
1		
2		
3		
4		
5		
6		

＜その４＞

同じご近所に住みながらも、お互いにほとんど交流していない５人程度の当事者に集まってもらい、聴取する方法。

［作業の仕方］

❶近くの当事者と助け合っていないと、１人ひとりが自分の困りごとに自分１人で対応しなければならない。

❷といっても、同じ当事者同士だから、共通な困り事も少なくない。しかしお互いに普段ほとんど交流しないとなると、どうしているのか。何らかの方法で連携できる場合があるのか。

❸例えば、１人ぐらいは懇意にしている人がいるかもしれない。その人を通して、情報を入手したり、依頼の仲間に入れてもらったりするのか。あるいは仲介者がいるのか。

❹わずか５０世帯の圏域であるが、こういう困り事やその解決の情報伝達はどのように行われているのか。

〈おつき合いのない当事者同士が連携できる方法は？〉

聴取を受けた人	困っている問題	解決の過程	連携が実現したか
Ａさん			
Ｂさん			
Ｃさん			
Ｄさん			
Ｅさん			

＜その５＞

はじめから特定のテーマは設定せず、アトランダムにピックアップされた当事者に、自由に話し合いをしてもらうという方法もある。一応、課題解決をめざすという目的だけは示す。

［作業の仕方］

❶そこでメンバーはどのようにして自分の困り事を吐露するだろうか。その前に自分の当事者としての特性を明らかにするだろうか。つまり当事者意識を持っているのか。それがないとしたら、自分の困り事をオープンにすることはできないのではないか。そのあたりの心の内が見えてくるといい。

❷そういう場合に、各自からどのような課題が出てくるのか。当事者は解決できなければ困るはずだが、このような場で悩み事を打ち明けることができるか。

❸困り事が出されたとして、それを皆で話し合い、解決へ向けて進もうという気持になるか。

❹そういう話し合いを通して、同じ要援護状態にある人同士の連帯が生まれるのか。特に困り事を抱えている仲間の問題解決に積極的に関わろうという意欲があるか。

❺自助活動の５段階に沿って活動をレベルアップさせていこうという意欲があるか。

❻これらがほとんど期待したようにいかなかった場合、どういう対応をすべきなのか。

〈問題を設定せずに自由歓談。そこで何が出た？〉

話題に上った課題	どんな議論が？	解決策が出たか？	今後どうする？

＜その６＞

特定の福祉問題を抱えているわけではないが、その土地に住む住民として共通の困り事があるという場合、（一人暮らしとか要援護とかには関係なく）、一般住民に集まってもらい、生活問題を出し合い、それをどのように解決していったらいいのかを議論してもらう。災害の被害を受けやすい地域であるとか、急な坂があちこちにある地域とか。

［作業の仕方］

❶ここでも当事者意識がある人かどうかで、議論が成り立つかどうかが決まってくる。少なくとも議論が成り立つためには、一定の当事者意識のある人に集まってもらう方がいい。

❷あるご近所で、住民に自分の土地の住み心地を尋ねたら、いろいろな不満が出てきた。ここは山の上を切り崩した所にまちをつくったという地域で、いずれ電車は通ると約束したにも変わらず、満足のいく対応を取ってもらえなかった。それに、急な坂ばかり、風が強い、店がない、学校まで遠いと、不満なことばかり。

そこで、そういうハンディを逆手に取った対策を考えてみたらと提案した。例えば坂が多いのを生かして、健康ウォーキングを広め、コースをつくり、大会を開くとか。また、山のてっぺんなので眺めがよく、ここから島も見えるので、展望台を作ろう。珍しい鳥などもいるから、ウォッチングをしようなど。

❸ハンディを改善する方策も考える。店がないのなら、住民が手作りのおかずなどを販売する店を作ろう。午後は特にバスが走っていないが、高校生が帰ってくる。その時間帯に合わせた送迎ボランティアを立ち上げよう、など。

〈わがまちのあの問題、何とかならぬかーアイデア会議〉

テーマに上った問題・

ここが問題だ	改善策	テーマを絞った案	これに取り組もう

＜当事者と語り合って気がついたこと・総括＞

自助マップを当事者と一緒に作っていく中で、気がついたことを、該当する欄に記入していこう。これらを本格的に当事者が主役となって地域の福祉を進めていくための参考にしていくといい。

テーマ	気がついたこと	これからどう生かすか
①当事者は自分の問題をオープンにできているか？		
②当事者は人に助けてもらうことをどう考えているか？		
③当事者は身内を超えた助け合いができそうか？		
④当事者同士、問題解決で連帯できそうか？		

⑤当事者はご近所福祉で世話焼きさんと連携できそうか？		
⑥当事者は問題解決で、５段階を意識できているか？		
⑦当事者は「助けられる」活動に誇りを持っているか？		
⑧当事者は自分の自助エリアを育てようという気があるか？		
⑨自分の想像していた当事者像と比べてどうか？		

⑩助けられ上手さんに出会えたか。そのとき受けた印象は？		
⑪マップ作りで、自助をどう受け止めるようになったか？		

住民流福祉総合研究所

木原孝久

〒350-0451
埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷１４７６－１
TEL049-294-8284
kiharas@msh.biglobe.ne.jp
http://juminryu.web.fc2.com/